

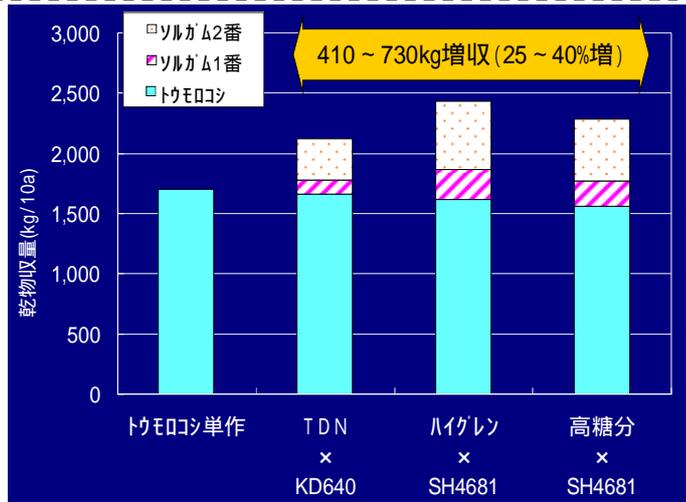
トウモロコシ、ソルガムの混播栽培について

トウモロコシ、ソルガムの混播栽培とは、春先にトウモロコシとソルガムの播種を同時に行い、夏にトウモロコシ主体の収穫、その後、ソルガムの再生力を利用し、秋にソルガムの2番草を収穫するという栽培体系です。

今年度、試験的に栽培を実施したところ、**トウモロコシ単作と比較して約3～4割収量が増加**する結果となりました(図)。サイレージ発酵品質については、若干バラツキが見られましたが、おおむね良好な発酵品質でした。

<栽培・刈取時の留意点>
 播種は4月中～下旬までに行う。
 トウモロコシ品種は早生品種(RM115以下)を選び、1番刈りを8月中旬までに行う。
 ソルガム品種は早生～中生品種を選ぶ。
 1番刈りは、ソルガムの再生を促すため、高刈りで収穫する。

<こんな場合におすすめ>
 トウモロコシ単作で収量アップしたい。
 イタリアンとの二毛作からトウモロコシ単作への転換を考えているが収量も確保したい。



<図 トウモロコシ単作との収量比較>
 (草地飼料研究室 鮎田 直子)

トウモロコシを茎葉、雌穂、子実に分けてサイレージを作ってみました。

飼料価格高騰への対応策として、濃厚飼料代替サイレージの可能性を調べるため、トウモロコシをストーバ(茎葉部分)、イヤコーン(雌穂部分)、グレイン(子実部分)に分けてサイレージ調製し、ホールクロップサイレージと比較検討しました。(各サイレージの外観は図1を参照)

サイレージの発酵品質を評価するフリーク



図1 各サイレージの様子と推定TDN割合

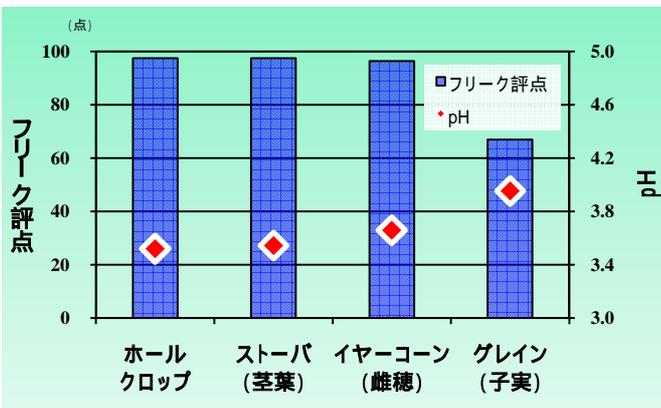


図2 各サイレージのpHとフリーク評価

評価と、pHについて図2に示しました。ストーバとイヤコーンはホールクロップと同等で、良好な値を示しましたが、グレインはpHが高くなり、フリーク評価は低下しました。

今後は、収穫作業体系を含めて濃厚飼料代替サイレージを検討していきます。

(草地飼料研究室 九石 寛之)